

NO,23

クロガネモチ

(モチノキ科)

高さ10～20mになる常緑の高木で、公園や庭園によく植えられており、街路樹としても一部に使われています。本州（関東地方・福井県以西）、四国、九州、沖縄に分布するほか、朝鮮半島や中国、台湾にも自生しています。

クロガネモチ（黒鉄もち）の名は、その年に伸び出した枝や葉の柄が黒っぽいところから黒鉄にみたてて付けられたといわれています。5～6月に葉の脇から花序を出し、紫が勝った小さな花をたくさんつけます。11～12月ごろには、赤い実が枝に鈴なりにつき、遠くからでもよく目立ちます。この実は野鳥たちの冬期の貴重な餌となり、ツグミなどがこの実を食べます。鳥たちがクロガネモチの実を食べる時期をよく観察してみると、冬でも遅い時期（12月以降）になってからで、雪が積もった後などに集団で飛来し、一気に食べてしまいます。

なお、クロガネモチの「もち」は鳥もちの「もち」で、昔この樹皮から鳥もちをつくったことによります。



▲ クロガネモチの葉：左葉表、右葉裏



▲ クロガネモチの実をついばむツグミ